

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 5 月 11日
事業所名	フレンズハウス七反野
事業所番号	2371100948
記入者名	職名 管理者 氏名 川地 多美子
連絡先電話番号	052-303-2256

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>ひとつの家庭のような生活が出来るようにしており、町内会の行事など積極的に参加させてもらっている。また、入居者の方が日常生活の中でより良い暮らしが出来るよう、日々支援している。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>理念は皆(職員・入居者・来訪者)が見やすいところに提示してあり、日ごろから常に理念を意識し、業務に取り組むよう心がけている。また、管理者からも日ごろより、理念の意識づけが声かけにより行われている。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	<p>家族の方には入居時説明し、理念の理解をしてもらっている。また、地域運営推進会議等を通し、地域との交流を深めている。運営推進会議の議事録も職員全員に回覧できるように見やすいところにファイリングしてある。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>近隣の散歩の際、ゴミ袋を持参しゴミ拾いに努めたり、積極的な挨拶に心掛けています。また、入り口や玄関には、「こども110番」の看板を掲げたり、介護相談の案内や見学のお誘いの張り紙をしており、玄関先には花壇を設けたずねて気易い雰囲気作りに努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>地域の盆踊り大会、地区会館での行事、近隣の高校で行われる地区行事等、地域活動にさかんに参加しており、またその他の地域の方からの呼びかけがあったときも交流を深めるよう努力している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入り口や玄関等、見やすい場所に「こども110番」の看板を掲げたり、介護相談の張り紙をしている。また、地域運営推進会議等でも、地域の方に、介護で悩んでいる方等のサポートが出来ないか話しあってほしいと訴えている。また、ミーティングの時も何か役立つことはないか、随時話し合いをしている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>実施する意義を理解しており、入居者の立場に立ちより良い提供を行えるよう心がけたり、地域との連携を図れるよう日々努力している。また、評価内容に対して、職員一人ひとりが認識出来るよう申し送りし、改善に努めている。前回の評価後に関しても、気づかなかったこと等かなり改善されていると思う。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方が協力的で、意見をサービス向上に活かされていると思う。また、地域の方からの助言等もミーティングの際報告し、サービス向上に努めている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>港区事業者会に参加し、区役所の方や区社協等の方の意見をいただいている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々に必要性のある方には現在支援できている。</p>	<p>○ 今後勉強会を開き知識向上に努めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>家族からの虐待に対しては、常日頃より家族と入居者の関係を見守り、疑いがあるようなら外泊等の帰居時に、身体等異常がないかの確認をしている。また、家族のみならず職員間でも介護にストレスを感じていないか気配りをし注意を払っている。</p>	<p>○ 今後勉強会を開き知識向上に努めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者より個別での配慮や取り組みが行われており、十分な説明・理解を得るよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを取るよう努力している。また、ケアカンファレンスの場においては、特に入居者の方からの話・意見等を聞けるよう配慮されている。意見や不満がある場合はミーティング等で取り上げ、話し合いの時間を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には随時近況報告をさせてもらい、2ヶ月に1回フレンズ通信を発行したり場合によっては電話にて連絡を行っている。また、ケアカンファレンスへの出席の呼びかけもしており、入居者の状況や、事業所の現況がわかるようにしている。金銭(小遣い)に関しても毎月一度は家族の方或いは金銭管理をしている権利擁護等に確認していただき、確認印をいただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等と信頼関係を結び、話をしていただけるよう努めている。また家族等の話は傾聴し、意見がある場合はそれらに基づき反映させていただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ミーティング・カンファレンス等で意見や提案を聞く機会を設け、月一回の法人の運営会議に持ち込み反映させている。(ミーティングの際、事前に無記名でのアンケート用紙を配布している)</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の方に関しては、外出行事などの日程に合わせた人員調整が出来ており、勤務の調整にも取り組んでいる。家族の方の都合に対しては管理者自ら時間を合わせ対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の方にも説明することによって今まで特に問題は見られず。また、他職員にてカバーしており、配慮は出来ていると思う。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や他職員からの業務指導をもらいながら実践している。また、職員が交代で法人内外の研修に出向き学んだことの研修会も事業所にて行われており、職員の知識向上になっている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会を通じて、他施設の方と交流したり学習会に参加したり、地域内のグループホームの地域運営推進会議に参加したりしている。また、当法人の他施設との定例会を毎月設けており、サービスの質の向上に努めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月親睦会(自由参加)を設け他のグループホームの職員と交わったり、ペット(猫)を飼うことによって癒されている。また、休憩室を一部屋確保しており、休憩時には業務から離れリラックス出来る状態にしてある。一年に一度位の割合で、管理者が職員の個別面談を行って率直な意見等聞いている。	○	業務に追われがちにならず、話し合いはもっと必要だと思うが、今はどうにか管理者や職員同士の日頃の声かけにより コミュニケーション作りは行っているような気はする。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	有資格者への待遇や研修にて向上心は育成されている。また、年末には実績等により事業所が表彰されたり配慮もなされており、職員の意識も高まっている。	○	向上心をもって働くことは大切なことなので、今以上に努力をし実績をあげていくことは必要だと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の実態調査の時点より行っている。入居されてからも常時心がけ、気になること等ある場合は調子を伺い、話を傾聴し不安を受けとめるよう努力をしている。また、ケアカンファレンスを行い、話を聞いたり、何気ない日常の会話などからも聞き入れている。</p>	○	<p>出来ることならもっと話が出来る時間をとってあげようようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の実態調査の時点より行っている。入居されてからも常時心がけ、気になること等ある場合は話を傾聴し不安を受けとめるよう努力している。また、ケアカンファレンスを行う際、同席をお願いしたり、行事の際の参加の呼びかけも行っており、話しがしやすい雰囲気作りに努めている。</p>	○	<p>あまり面会に見えない家族の方には近況報告の電話をかけ、意見をいただくようにしている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームの入居にあたり他のサービス利用は不可能だが、日常生活においての支援は行っている。また、希望や相談があれば他の介護施設等の紹介を行っている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者本人のその時々状況に応じ、家族等と話し合いながら無理のない生活が出来るよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護者としての立場を踏まえながら、一緒に過ごしていく中で学んだり支えあったりという関係を築き、時には喜怒哀楽を共にしながら生活をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との会話を持つようにし、行事等の参加も呼びかけ、入居者の方を交え交流できるよう努めている。また、家族の方の要望にこたえられるよう努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員と家族のコミュニケーションを深め、家族の方が行き来しやすい雰囲気をつくり、本人・家族の両者の気持ちをくみながら支援している。	○	遠方の家族の方には近況報告等の電話連絡をする際、本人にも電話口に出てもらい少しでも関わりが持てるようにしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えたり、電話が来たり、入居者の方から電話をされたりしている。馴染みの場所は行事の際、可能な限り支援に努めているが一人ひとりに対応していくのはかなり困難なことと思われる。		写真を用意したり、家族の方からの話を聞いていただく等、大切なものを忘れてしまわないようにしていただきたいとは思っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう、レクリエーションの時間を設けたり、お茶の時間等にコミュニケーションを図るようにしている。また、週に一度は外出行事を設け、より深く関わりを持つことが出来るよう努力している。そして、入居者同士トラブルが起きないようにお互いを尊重するよう声かけに努めている。		業務にばかり目が行くのではなく、入居者間を職員がもっと支えるように努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も家族等からの相談には出来るだけ対応するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本位を心がけ、希望や意向等聞き取り、ケアプランに活かしたりと可能な限り実行している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に家族の方より記入していただいたバックグラウンドや日常の会話等から一人ひとりの趣味趣向を検討し、無理のない生活を支援している。</p>	<p>○</p> <p>センター方式を実施しているが、入居者一人ひとりの深い思いまでにはなかなか到達できていないのが現状である。今後も職員全員にて把握に努めていきたいと思う。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>アセスメント表に基づいたり、聞き取り調査をしたりして入居者の出来ること出来ないことを話あっている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスを行う際、必要な関係者(PT・OT等)に相談したり、なるべく家族に同席していただき、家族の意向や本人の希望等を取りいれて作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にプランの見直しをするほか、毎月のミーティングにおいても随時変化等ある入居者については話し合いをしており、すぐに見直しを行うように対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、必要に応じては申し送りノートにも記録を残し、職員全員が把握できるようになっている。また、ケアプランチェック表もあり、プランの実行内容等も記録されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは多機能ではないため、多機能を活かした支援は出来ないが、その時々々の本人や家族の状況や状況に応じて出来る限り柔軟に対応できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の協力のもと、地区会館の文化展や近隣の高校の地域の祭り等に参加させてもらっている。また、地域の方のボランティアでこども太鼓や大正琴の慰問もある。警察署・消防署には、港署に出向き、緊急時のお願いをしており、協力体制は出来ている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じて訪問理美容やマッサージ・リハビリ、また花店の協力・指導により、毎月一回フラワーアレンジメントクラブ等も行っている		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はないが、権利擁護は利用している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週一回の往診及び24時間の対応にて適切な医療を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携の医師が認知症の方の医療に熱心で、毎週一回の往診及び24時間の対応にて適切な医療を受けている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームに看護職員がおり、また提携医の看護師とも管理契約を結んでおり、日常の健康管理及び医療活用の支援は行えている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や本人、入院先の病院のケースワーカーや提携医との情報交換や相談に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については入居契約の際、説明している。また、必要に応じては随時説明させてもらっている。提携医とは随時連携が取れるようになっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者が全員高齢のため重度化や終末期の可能性ありと受けとめ検討は行っているが、具体的に準備は行っていない。提携医とは随時連携は取れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆さん認知症があり、お金の管理が難しい方が多いが、自己にて管理できる方は小遣い程度のお金は自己管理されている。また、ホームにて小遣い管理している方でも、支払い能力のある方には自己にて支払いを行っていただいている。どなたに限らず、買い物の要望があれば職員側で選ぶのではなく、本人に選んでいただき好みのものを購入できるようにしている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの要望に応えることはかなり困難なことであるが、天気の良い日は散歩に出かけたり、週一回ではあるが外出行事を設けたり、地域の行事に出掛けたりとなるべく戸外に出れるようには支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を取り入れて計画された、週に1回の外出行事・年間3回程行われる日帰り温泉旅行・毎年春から初夏にかけて計画される一泊旅行等、入居者の要望を聞きながら計画されており、家族の方の参加もいただいている。また、家族の意向にあわせ本人と外出外泊していただいている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が電話をかけたいとき・手紙を出したいときは速やかに対応し、大切な方々との縁をつないでいただいている。また、耳が遠かったり、字がかけない等の援助が必要な方には職員が代弁・代筆を行い支援している。入居者の中には家族と本人の希望により携帯電話を持参されている方もいる。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただき、職員も失礼のないように心がけている。また、訪問時には、居室やリビング等で本人と一緒にお茶等飲んでいただき、楽しくゆっくり過ごしていただくよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解は十分にしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭で過ごしているような感覚で生活をしていただきたいため、居室や玄関は日中は鍵をかけず、どなたでも出入りしやすい雰囲気作りをしている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各職員が入居者に対して過干渉になりすぎないように配慮しながら、常に見守りを行い、一人ひとりの行動を把握し、個人記録等に記入して安全に生活できるよう配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態等を把握しながら危険予測をし、それに見合った対処法を職員間で話し合い実行している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為、常に職員一人ひとりが心がけ、ハイリスクな事故に関してはケアプラン等により予防策が立てられている。万が一事故が発生した場合は、すぐにミーティングを開き、早めの対応及び再発防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には提携医や管理者への連絡網の把握は徹底されている。また、ホームとしてのマニュアルはあり、応急手当等の講習があれば職員を派遣し、学んだ知識を全職員に伝えている。しかし定期的となると行われていないのが現状である。	○	定期的に学習会を行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・防災の訓練を定期的に行っており、マニュアルもある。また、非常食・水などの備えもしており、地域運営推進会議においても地域の方の協力をお願いしている。ただし、現実問題としては足腰の弱い高齢者ばかりなので不安要素は多々にある。	○	全職員の緊急連絡網等のシュミレーションを行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>面会時やケアプランを立てる際、家族の方に同席していただき一緒にカンファレンスを行ったりしてその都度説明はさせていただいている。また、急を要するときは電話連絡にて対応させていただいている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日バイタル測定をしており、軽症のときから早期発見できるよう心がけているが、体調面・行動面等で変化がある場合は、提携医及び管理者に報告し指示を仰いでいる。また、個人記録や申し送りノートに記入し職員全員が把握できるようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋に基づき用法・用量を理解しており、誤薬予防の為にセッティング・配薬に配慮し、内服していただいている。また、変更時の申し送り等も徹底して行われている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>リハビリ体操をしたり、散歩をしたり等身体を動かすよう心がけたり、水分摂取の必要性を入居者に理解していただいたり、食事においては、繊維質の野菜をなるべく多く食卓に出せるよう工夫している。また、毎日排便チェックや水分チェックを行い、早期に排便困難を把握できるよう努めている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時及び食後など声かけをし行ってもらっている。ただし声かけしても本人の意思もあり、全員が毎食後行っているわけではないが、一日に1～2回以上は行うよう、声かけや誘導をしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士がいるわけではないので、細かいカロリー計算等は出来てはいないが、献立を作る際、野菜を多く取り入れ、全体的に栄養のバランスを考えたり、四季が楽しめるメニューになっている。また、食事や水分がきちんと取れているかどうかを把握するために毎回摂取チェックを行い、体調不良等の早期発見に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり随時確認できるようになっている。また、随時感染症に対しての予防対策のプリント等配布したり、閲覧できるようにしている。外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の使用・管理には十分に注意を払い、賞味期限等を記入したり、新鮮な食材を使うよう心がけている。冷蔵庫等も不衛生にならないように注意を払っている。また、ふきんは朝・昼・夜と消毒し、食器・調理器具に関しては毎回熱風乾燥機を使用し、特に食器に関しては定期的にハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関などいつもきれいに掃除しており、玄関先には花々が植えてあり、建物周辺には池や畑があったりと一般家庭のような雰囲気をかもし出している。また、こども110番や介護相談等の張り紙も常時掲げている。いつでも気軽に出入りできるよう配慮してある。家族の方々も玄関が施錠されていないため、気軽に出入りされている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南向きで明るく、ゆったりとくつろげるソファとテレビが置いてあり、季節に合わせた飾りが工夫されている。テーブルには四季折々の花が飾られ、季節感を十分に味わっている。入浴時もお風呂から熱帯魚を觀賞したり、庭には池があり、畑には季節に合った野菜を栽培する等の工夫をこらしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビやゆったりしたソファが置いてあり、いつでも座ってくつろいでいただけるように工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に家族等と相談し馴染みのものを持ってき ていただき、居心地よく過ごしていただくよう工 夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	トイレや浴室は常時換気を行い、フローアもその 時々に応じて換気をしている。天気の良ときは 窓を開け、必要であれば入居者の要望や状況等 に合わせて、エアコンをつけたり等の配慮をして いる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており、通路も広くと ってあり車椅子の動きもスムーズに出来るよう配慮 されている。壁側には全て手すりが設けてあり、 リハビリにも活用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室前に本人の顔写真を貼ったり、ぬりえの好き な方は本人がぬった絵を居室前に飾っている。ま た、トイレ入り口もわかるように張り紙をしたり 等の工夫が施してある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑には季節に合った野菜が植えてあり、庭の池に 鯉や金魚が泳いでいて、その横にテーブル・椅子 が置いてあり、外の風を感じながらお茶を飲んだ り、バーベキューや餅つきをしたり等、多様に活 用している。	○	畑も何度か収穫をむかえ、その度に喜びを感じて もらっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしの中で如何にして入居者の方が、楽しくかつ安全に生活していくことが出来るのだろうかと全職員あげて思案しております。畑の野菜・庭のサツキやきんもくせい・金魚に鯉・熱帯魚に猫や生け花等、入居者の方の癒しになるもの等多々に取入れ、行事もイチゴ狩にぶどう狩・温泉旅行に居酒屋ツアー・バーベキューに餅つき大会と四季に合わせた行事や入居者の要望に合わせた行事を予定し参加していただいております。今後も入居者の方を中心とし、また優先とした生活をしながら楽しく安全に過ごしていただけたらと願っております。